

の臨床への応用が期待される。

当院の加藤ら¹⁰⁾は年齢やウイルス量によって、B型肝炎治療のステージ分類(表3)を作成し、治療法の選択に使用している。HBs抗原、HBe抗原、HBV-DNA、ALT、年齢によってステージングを行い、発がんリスクを考慮して、ラミブジン、IFNなどの治療の適否を示している。しかし、これらは新たな抗ウイルス薬が使用可能になるまでの暫定的な治療選択であり、今後、選択肢が広がる可能性が十分考えられる。

おわりに

B型肝炎では、その多くが一過性感染で、無治療にて軽快する。まれに重症化や劇症化を引き起す。B型肝炎慢性増悪では、セロコンバージョンなど、一過性の悪化で改善する場合もあるが、一部に重症化や劇症化を起す症例を認める。どちらも治療の最大の目的は重症化や劇症化を未然に防ぎ、肝不全を引き起さないことである。そして、不幸にして、肝不全となったときには、肝移植を含めた集学的治療を行うことが重要である。今後、新たな抗ウイルス薬の開発により、B型肝炎に対する治療法は大きく変化する可能性が考えられる。

伊与田賢也・結城暢一・山本佳司
加藤 道夫

文 献

- 1) 正木尚彦, 他: A型・B型肝炎. 消化器疾患最新の治療 2003-2004. p289-293, 南江堂, 東京, 2004.
- 2) 今関文夫 訳: B型肝炎ウイルス. “シャーロック” 肝臓病学 第11版, p246-254. 西村書店, 新潟, 2004.
- 3) Yuki N, et al: Long-term histologic and virologic outcomes of acute self-limited hepatitis B. *Hepatology* 37 (5): 1172-1179, 2003.
- 4) 鈴木一幸, 他: 急性肝炎重症型の子知と病態に関する研究. 厚生労働省特定疾患対策研究事業「難治性の肝疾患に関する研究」班平成12年度研究報告書, p32-35, 2001.
- 5) Yoshida M, et al: Accurate prediction of fulminant hepatic failure in severe acute viral hepatitis: multicenter study. *J Gastroenterol* 37 (11): 916-921, 2002.
- 6) 鈴木一幸, 他: 急性肝炎重症型の劇症化予知に関する prospective study. 厚生科学研究補助金特定疾患対策研究事業 難治性の肝疾患に関する研究 平成13年度総括・分担研

- 究報告書, p104-109, 2002.
- 7) Kondili L A, et al: The use of lamivudine for patients with acute hepatitis B (a series of cases). *J Viral Hepat* 11 (5): 427-431, 2004.
 - 8) Okamoto H, et al: Hepatitis B viruses with precore region defects prevail in persistently infected hosts along with seroconversion to the antibody against e antigen. *J Virol* 64 (3): 1298-1303, 1990.
 - 9) 持田 智, 他: B型急性肝炎治療法の最新動向. ウイルス性肝炎 (下) 日本臨床 増刊 62 (Suppl 8): 248-252, 2004.
 - 10) 加藤道夫, 他: HBV マーカーと発癌リスクよりみた HBV キャリアのステージ分類. *肝臓* 45 (11): 581-588, 2004.